
元彼と今彼は兄弟！？

神姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

元彼と今彼は兄弟！？

【Nコード】

N3905G

【作者名】

神姫

【あらすじ】

ある日、かつこよくて優しいクラスの男子に告白した主人公、吉川真希はそれが原因でいじめられてしまう。返事は良かったのだが、彼氏になってくれたのに、いじめをやめさせようとしてくれない。そのなか、助けてくれたのは、彼氏の兄で…？

夢の原因（前書き）

こんにちは！神姫です。

初連載ですが、よろしくお願いします。

ハッピーエンドを予定しています。

苦くて甘い小説ですが、どうぞ、付き合ってください！

夢の原因

抜け出せ 君よ

抜け出すことは 逃げることではない

一つの経験へと つながるであろう

自分の 道を 歩むがよい

そして 支え合える ”友” という名の

光を 作るのだ

.....

はっ

目が覚めた。

ここのこと、夢って言うより、

寝ているときに、頭に言葉が入ってくる。

しかし、誰の声かも、どんな人かもわからない。
もしかしたら、神様が、あたしの心の中に、

ひそんでいるのかもしれない。

この夢は、あの日から始まった。

あたしは吉川真希。

高校に入学して、3ヶ月くらいたったある日、あたしに、長嶋勇氣と言う名の、初めての彼氏ができた。かっこよくて優しい人だから、思い切って告白したんだ。そしたら、いいよっていつてくれて…。

その噂は、どんどん広まっていた。

その結果、きつと、長嶋勇氣のことが好きだったのであろう女子が、あたしをいじめるようになってきたのだ。勇氣を出して告白した、次の日から…。

「ちよつと〜、吉川さん。あなた、長嶋君と付き合ってるんだって〜?」

「へ〜。長嶋君があなたのような人を選ぶなんて〜…。」

「調子乗ってるんじゃないわよ〜。」
「ばしゃっ」

ここは、トイレ。

蓮田麗奈、野中真理恵、小塚伊織の3人が、あたしを連れ出して、バケツの水をぶっかけてきたのだ。

「もっと自分の顔を見なさい！この雌豚めが！」

「その通りよ！」

「あなたはゴミも同然！流されなさい！」

と行って、便器の中に、顔をつっこませようとしてきた。

「や、やめてよ！」

あまりにもひどいので、黙っていたが、口に出した。

「黙りなさい！あなたは必要のない人間なのだから。」

「しゃべる権利は無いわ。」

「なあに？逆に自分を見直そうとするためのきっかけを作ってあげてるんじゃない。感謝しなさいよね。」

変な理屈をつけて、強制的に頭を強く押してくる。

「や、め…ろお！」

「「「キャハハハハハ！」」」

とうとう切れた。あたしは叫んだ。

「助けて——！！！」

あたしが叫ぶと、一人の男性が入ってきた。

「何をやっている!」

3人は男性の方を見た。

「だ、誰よあんた!」

「変態!出て行きなさいよ!」

「先生に言うわよ!」

何を言っているんだ、この人達は。

自分たちのやっていることと矛盾してるじゃないか!

「今は変態とか関係ない!それに一人の子に団体で攻める方が変態だろう!」

この言葉に3人はだまり、力を弱めた。
もちろん、あたしも驚いた。

「…っ!覚えてろよ!」

「先生に言いつけてやるんだから!」

「この変態…!」

まだ言っているが、男性は気にしていない様子だ。

「大丈夫…?」

話しかけてくれたので、あたしは答えた。

「あ、はい…。大丈夫です！」

「そう…、良かった。なんで絡まれたのかは聞かないけど、気を付けてね。」

男性は立ち去ろうとしたので、あたしは止めた。

「あ、待って！名前を教えてください！」

「…そんな、名乗るほどのことはしてないよ。じゃあね。」

「え、あのっ…。」

男性は行ってしまった。

名を名乗らずに…。

ヒーロー

教室に戻った。あの3人はクラスの女子全員で、多分あたしのこと
を話している。

ちらり、とあたしを見る人がいるから…。

逆に、男子はあたしのことを、

「吉川さん、行かないの?」

だとか言って、心配してくれている。
あたしは、

「うん、いいの。ありがとう。」

とだけ答えた。

女子は、あたしに聞こえるか聞こえないかくらいの声で、

「吉川のやろつ、浮気してるわ。」

「やろつー。」

だとか言っている。

別に浮気なんてしていないのに…。

その日の放課後、あたしは、勇気と一緒に帰ろうと約束していたので、

靴箱で待ち合わせていた。

しかし、待っていても、勇気は来なかった。

そこに、あの3人が来た。

「あーら、吉川さん。そこで何を？」

「まさか、長嶋君と待ち合わせとか？」

「まだ懲りないのね。」

3人は、また水をかけようと、そこにたまたまあった、ぞうきんを洗った水入りバケツをとって…。

「「「お仕置きよ！」「」「」

あたしは目をつぶった。

ばしゃっ

しかし、水はかからない。

そっと目を開けると、そこには、

知らない男性が立っていた。

びしょぬれになって…。

3人は目を開いてバケツを落とした。

「まだやっていたんだね…。君たちは。」

この声は、さっきの男性…。聞いていて、心地のいい声。
髪の毛は、綺麗な茶色にフワフワしていて、
背が高い。おそらく180cmはあるだろう。

「あ、ああ、あのっ、私たち…。」

「こ、この人が…。」

「……………。えっと…。」

3人はさっきと違う態度だ。

それに、微妙に涙を流している。

男性が怖い目でもしているのか、体が震えている。

「「「ごめんなさい!!」「」

と行って、走り出した。

「待て!」

3人は止まった。

「この子に、言うことがあるだろう。」

3人はびくびくしながら、あたしの方を向いた。

しかし、黙っている。

「言えないのなら、こっちにも考えがあるが。」

3人は、ようやく口を開いた。

「」「」「ごめんなさい……。」「」「」

しかし、あたしは何も言わなかった。

男性は、氣遣ってくれたのか、話を変えた。

「とにかく、君たちのやるうとしたことは、この子を、いや、周りのみんなも傷つけてしまっ、悪いことなんだ。」

3人は下を向いている。

「とにかく、今日は帰りな。」

3人は「はい……。」とって、涙を拭きながら帰っていった。

男性は、あたしの方を向いた。

男性の顔は、正直に言っかっこよかった。

目は大きくて二重で、鼻は高くて、唇もいい色をしていて眉毛もりりしくて。

きつと、3年か2年かに違いない。

「君、名前は？」

「え、あの、吉川真希です。」

「そっか、真希か。大丈夫か？」

「あ、あたしよりも、えっと…ぬれてますよ！」

「あ、名前教えてないもんな。おれ、長嶋大地。名乗ってしまったな。」

俺は平気だから、気にしないで。真希、1年だろ？」

いきなり呼び捨て…。まあ、いいか。

「あ、はい…。」

「俺3年！1年に勇気っているだろ。俺の弟なんだ。」

「え、勇気…じゃなくて、勇気君のお兄さんですか??？」

「うん。顔は似てないんだけどね。」

確かに、カツコイイのだが、顔つきは全然違う。

「あ、勇気帰った？」

「みたいですね。」

「そっか、仕方ない…。俺は帰らないと…。真希、大丈夫？送ってくよ?。」

「え…、でも…。」

「いいから、さっきみたいにな奴らに、絡まれたら危ないだろ。」

「あ、あは…。」

この人は優しい。ちょっと強制的だけど…。
だから、送ってもらおうことになってしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3905g/>

元彼と今彼は兄弟！？

2010年10月20日02時53分発行